

重要建造物群保存地区
選定30周年記念事業

第16回

今井灯火会

令和5年 8月5日 土曜日

午後7時点灯 午後9時消灯
雨天・荒天の場合中止となります

場所

華覚 点灯式会場
中尊坊通・御堂筋
稱念寺 抹茶席 先着50名様
南町生活広場
春日神社 /七夕飾り/ひやし飴水
今井西環濠 /灯笼流し
(春日神社西側)

いまい・灯火会 第Live 観内家19:30~

今井町並み保存会・今井町自治会

第16回今井灯火会 開催予定

8月5日(土)19時

梅雨明けとともに、酷暑の夏がやってきました。灯火会は、コロナ禍で3年の中断の後、昨年復活再開することができました。今年も、昨年並みプラスαの灯火会を開催したいと願っています。町民皆様方のご



いまいは今
vol. 278

発行 今井町並み保存会
発行日 令和5年8月1日
電話 0744-22-1128
<http://www3.kcn.ne.jp/~imaicho/>
e-mail imaicho@m3.kcn.ne.jp
◇ご意見・ご感想は
今井景観支援センターまで

理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。灯火会の灯火は、かつて重伝建地区内のほぼ全ての通りに七千灯以上点灯したこともありました。今年も昨年並みに、通りには東から中尊坊通り、御堂筋、宮の前通り、拠点としては開会式会場となる華覚周辺、呈茶席を設ける稱念寺境内、南町生活広場周辺、七夕飾りを展示する春日神社境内、灯笼流しをする今井西環濠に合計約2000個の灯火を灯す計画です。プラスαの部分は、稱念寺での「呈茶席」(有料)、藪内家での「いまい・灯火会等Live」、今井まちづくりセンターで子供向けの「絵本読み聞かせ」です。灯火会をアピールする大看板も復活させて蘇武橋方面で2基、公民館横の復元堀の中に1基

復活する予定です。

今井町内での生活を振り返ってみれば、昭和30年代くらいまでは今井の民家には、通り土間と竈(カマド)は必須のもので竈での調理には裸火を使っていた。その後日本経済の発展につれ、家庭の生活手段の近代化が進み、通り土間はなくなり床を張り、台所を改造してガス器具が備えつけられ裸火を使う機会は減りました。まして

オール電化の家ではガスさえも使わずに生活することが可能な世の中になっています。今はせいぜい神前仏前の灯明に蠟燭(ロウソク)や線香の点火にマッチやライターを使用するくらいですが、それもロウソクの火からの失火を防ぐため電気器具に変わっているのが実態です。

私たちの生活になくはならない「火」、扱いを誤ればとんでもない災難を招く「火」、日頃滅多に扱うことのなくなった裸火の扱いを灯火会での灯火の「点灯」、点灯中の「見守り」、火の後始末「消火」をしつかり体験していただきながら、今井町の町並みが灯火に彩られてほのぼのとした優しさに包まれるのを見て、昼間の暑さをひととき忘れる機会を楽しんでいただきたいと思ひます。灯火点灯の準備、後片付けには大汗をかきますが、ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

(昨年の灯火会風景)



春日神社



今井西環濠

夏越の大祓い

茅の輪くぐり



るよう願う神事です。

梅雨の最中で天気がとても気になりましたが、幸いにも雨が降らず70人もの皆さんが参集しました。拝殿横で宮司さんの祝詞奏上の後、各自御清めの切麻(キリヌサ)を右手にもって左肩、右肩、左肩の順にふりかけて身を清めた後、宮司さん先導のもと、茅がやを何重にも縊り結んだ大きな茅の輪を第一回目は左回り、二回目は右回り、三回目は左回りで3回くぐり抜けました。その時みんなで声をそろえて次の歌を何回も繰り返して唱えながら歩きました。



6月30日16時から

春日神社において恒例の夏越の大祓の神事が行われました。

元旦から始まった一年の半分が無事過ぎたことに感謝するとともに、半年間の罪や穢れをお祓いし、残り半年も清らかな気持ちで過ごせ

第一回目の歌

思ふ事皆つきねとて麻の葉を

きりにきりても祓ひつるかな

第二回目の歌

みな月のなごしの祓する人は

千年(ちとせ)の命のぶと云ふなり

第三回目の歌

宮川の清き流に禊せば

祈れる事の叶はぬはなし

大雨の中、護摩焚き祈禱完遂

7月7日春日神社境内の行者堂において、護摩焚き祈禱が行われました。夕方から俄に天気が悪くなったので時間を繰り上げて18時30分から始まりました。

行者講世話役の皆さんが準備した護摩木を焚く火炉は年々工夫改良されてきました。今年は雨中での着火の為に文明

の利器を利用して着火に成功、蓮妙寺の松島老師、松島住職父子の読経の中、燃え上がる炎は、雨水をものともせず2000本余りの町民皆様の願い事が書かれた護摩木が焚き上げられました。



2023奈良・町家の芸術祭

はならあと開催予定

10月20日(金)～29日(日)

「奈良・町家の芸術祭はならあと」は、地域価値の発掘作業を通して、奈良県の豊かな文化や暮らしを過去から未来に繋ぐ、今ここから発信するアートプロジェクトです。今井町は、昨年サテライト会場として6人の作家の作品を古民家や景観支援センター・中町生活広場で実施しました。今年も、宇陀・松山地区がコア会場で今井町、桜井戒重、吉野三茶屋がサテライトで参加します。現在今井エリアには8人の作家さんが応募してくれていますが、今後作家と会場のマッチング等の準備を進めていきます。この開催に協賛いただいたお店企業の方々に紙面を借りてお礼申し上げます。

2023地域プランナー・

コーデイネーター養成塾始まる

一般社団法人地域づくり支援機構が主催する標記養成塾が7月8日から翌年6月1日まで今井町阿伽陀屋若林亭で開催します。本年度の塾生は16期生になりますが、塾生は7人です。

〈今年中の保存会の行事予定〉

9月今井寄席

奈良大学落語研究会 調整中

9月24日(日)

Nara観光コンシエルジュと巡る 大和今井